

No.185

令和2年9月15日

【発行】

豊橋市立青陵中学校 校長室

t-asai-hideo@toyohashi.ed.jp

Rising Sun



暑さ寒さも・・・。

日中の気温は 30℃に届こうかという日はあるものの、朝夕の気温はぐっと下がり、ひと頃を思うとずいぶん過ごしやすいようになってきました。今朝は涼やかさを乗り越して肌寒さを感じたほどでした。みなさんのお宅ではいかがでしたでしょうか。

気候がよくなってきたせいでしょうか。生徒たちの登校してくる足取りも心なしか軽やかに映りました。交わす挨拶の声も、よどみなくさわやかに聞こえてくるから不思議なものです。少し前まではけたたましく聞こえてきたセミの鳴き声もいつのまにか鳴りを潜め、代わってコオロギやマツムシの鳴き声が聞こえてくるようになりました。

異常に暑かった今年の夏もようやく終わりを告げ、実りの秋を迎えようとしています。コロナ対策でなにかと制約はありますが、青陵中の教育活動も実りの秋を迎えられるよう **ALL FIGHT!** でよろしくお願いします。

今週末 19日(土)はお彼岸の入り、来週 22日(火)は秋分の日でお彼岸の中日になります。

【暑さ寒さも彼岸まで】

暑さも秋の彼岸になれば衰え、寒さも春の彼岸になれば薄らぎ、やがて穏やかな気候になる、ということ。

実用ことわざ慣用句辞典(三省堂)より

昔の人はよくいったものですね。まったくそのとおりで、言い得て妙です。

かつて、小学校に勤めていたときのことで。お彼岸を前にした全校朝会で、全校児童が見えるくらい大きな短冊を提示しながら、

「暑さ寒さも〇〇〇まで」の〇〇〇には、どんな言葉が入るでしょう？

と尋ねたことがあります。低学年の子はともかくとして、高学年の子ならば少なからず手が上がるだろうと期待していました。ところが、です。意外にも知っていた子どもは、ごくごく少数でした。子どもたちのい

ちばん身近な大人である親の世代は、こうした言い回しやことわざを交えて子どもたちと会話をしないのでしょうか。

季節の変わり目を体感しているであろうこの時期に、生徒たちにぜひ問うてみてください。いったいどれくらいの生徒がこの言葉を知り、意味を知っているのでしょうか。

お彼岸といえば、まっさきに連想するのはやはりヒガンバナでしょう。今年のように異常に暑い夏の後だろうが、冷夏といわれる夏の後だろうが、毎年計ったようにお彼岸が来る頃花を咲かせます。日本を代表する花であるサクラをはじめ、ほとんどの花の開花は気温に大きく左右されます。暑かろうが涼かろうがほぼ決まった時期に花を咲かせるヒガンバナの不思議について、植物に詳しい先生に尋ねたことがあります。

「僕も詳しくは知らんだけどねえ。ヒガンバナは気温に反応して花を咲かせるんじゃなくて、日照時間を感知して花を咲かせるということを知ったことがあるよ。」

というお返事でした。納得です。

この先、体育祭、新人戦、青陵祭と立て続けに行事が予定されています。感染対策に留意しつつも、生徒たちのエネルギーが正しく発揮・発散できるよう、適切な指導とサポートをよろしくお願いします。

